

ふしみサラダボール子育て情報

「子どもの社会性の育ち」

令和6年9月4日号

板橋富士見幼稚園



家庭から他者との関係を作り始める

言葉は、人と人を繋ぐ大切な文化的記号と言われます。
人間だけが授かった言葉を、子供はどうやって覚えていくのでしょうか。

言葉での伝え合いは、社会性の育ちを応援します。1歳半を過ぎた頃から、親から聞いて覚えた言葉を使って、少しずつ思いを伝えることができるようになっていきます。はじめの言葉は、挨拶言葉です。

挨拶は、相手との心を繋ぐもっとも大切な言葉として、ほとんどは無意識に使われていきます。「おはよう」「いただきます」「バイバイ」など、毎日使う挨拶から、人と人とのコミュニケーションは始まります。

次第に、自分がしてほしいことや相手に伝えたい事、さらには見たり聞いたり考えたりしたことを伝える言葉を覚えていき、人と関わる楽しさを学びはじめます。

その後は成長と共に、相手の思いと自分の思いや考え方の違いに気づき、学び合いが生まれてきます。その最たる場が幼稚園です。

幼稚園という場は、こうしたコミュニケーションを広げていく場であり、相手に憧れを抱いたり、相手の考えを受け入れたり、一緒に目的を持ってやり遂げようとしたりすることで、社会性が大きく育っていきます。時には折り合いがつかず、いざこざになったり、喧嘩に発展したりすることもあります。こうしたときは、大人がすぐに手助けをするのではなく、なるべく自分で解決できる方向を援助し、自己解決能力を高めてあげてください。そうすることで、だんだんと人との関係がうまく解決できるスキルを学ぶことができるようになっていきます。

【夏期保育～スイカ割り・つくってたべよう・ゆうやけコンサート】



楽しい行事が盛りだくさんの夏期保育で、夏の終わりを楽しみました。